



議会毎に県政懇談会を開催



県内の漁港視察



い草農家視察



山江村小中学校研究発表会参加



豪雨被害のあった地域でのボランティア活動



熊本県学校給食会視察



学校給食について文科省へ聞き取り



熊本高校、熊本商業高校
翔陽高校、済々黌高校を視察



経済環境常任委員会で広島を視察



(株) 東洋ライス視察



緑川ダム水力発電視察



定期的に通町筋にて街頭活動

沖縄読谷村にある義烈空挺隊慰霊碑へ参拝

皆様は、義烈空挺隊をご存知でしょうか。熊本で生まれ育った私自身、恥ずかしながら数年前までその存在を知りませんでした。義烈空挺隊とは、大東亜戦争末期、米軍に占領された沖縄の飛行場を攻撃するため編成された陸軍の特別攻撃隊です。隊長は当時26歳、陸軍幼年学校出身の奥山道郎大尉でした。昭和19年、サイパン陥落により東京はB29の爆撃圏内に入り、日本の主要都市は度重なる空襲で多くの民間人の命が奪われました。これを何とか阻止しようと立案されたのが義号作戦です。制空権・制海権を失った沖縄へ、激しい対空砲火の中を強行着陸し、B29を破壊するという決死の作戦でした。昭和20年5月24日、夕陽に染まる金峰山を背に、12機168名が熊本市健軍飛行場を飛び立ちます。故郷を選擇しての出撃でした。その壮絶な突入は内外に衝撃を与え、米軍もその忠烈さに畏怖したと伝えられています。義烈空挺隊の想いは硫黄島と同じく、「一日でも本土空襲を遅らせ、女性や子どもたちを守り、祖国再興への道をつないでほしい」という一点にあったのではないのでしょうか。

「無謀な戦争だった」との評価もあります。しかし当時、欧米列強が世界を席巻する中で、日本は数少ない独立国家でした。先人たちの戦いがなければ、私たちの存在すらなかったかもしれません。アメリカによる民間人を標的とした本土爆撃は明確な国際法違反であり、命を賭してそれを止めようとした事実を、私たちは決して忘れてはならないと思います。

